



国際ロータリー第2680地区
Rotary
加古川ロータリークラブ



Weekly Reports 2020-2021

2020-21年度 RI会長; ホルガー・クナーク / 地区ガバナー; 高瀬 英夫
加古川ロータリークラブ会長; 城 貴博 / 幹事; 久後 勇人
〒675-0064 兵庫県加古川市加古川町溝之口800番地 加古川商工会議所会館5F
TEL 079-423-0661 FAX 079-423-0677 e-Mail kakogawa@rotaryclub.ne.jp

令和2年10月27日(火) 晴 No. 15



▲会長挨拶



▲国本豊泰氏卓話



▲松尾職業奉仕委員長

会長の時間

会長 城 貴博

職業奉仕の解釈は、ロータリーの五大奉仕の中で最も難解と言われています。ポール・ハリスは著書「ロータリーの理想と友愛」の中で職業・事業について、こんな語録を残しています。

「昔は、実業家は一つのこと、金儲けしか考えませんでした。今日、実業家は、顧客、従業員、同業者、仕入先、一般の人々に対して公正でなければなりません。時代は、事業にどれほどの力量があるかと挑戦しているのです。事業はその挑戦を堂々と受けたのです。事業を見れば、その人が分かります」と書かれています。

1912年の語録ですが、現在にも十分通じるものがあります。

本日は職場例会です。職場例会といいますが、よくあるパターンとしては会員の企業を訪問してそれぞれの企業がどのように職業奉仕を実践しておられるかを学ぶという方法で行ってまいりました。しかし、今年はコロナの関係で少し趣向を変えた職場例会となっております。

本日は、ゲスト卓話で(公財)兵庫県勤労福祉協会 ひょうご仕事と生活センター チーフコンサルタント 国本 豊泰様をお迎えしております。どうぞよろしくお祈いします。

幹事報告

- 1) 地区より、地区補助金プロジェクト見学訪問(柏原 RC)の御案内を回覧します。
- 2) 例会での服装について、11月よりジャケット、ネクタイ着用をお願いします。
- 3) 次週11月3日(火)は例会はありません。祝日のため休会となっております。また11月10日(火)は通常例会に変更となっており、内容は石井・潮見会員の新会員自己紹介です。お間違えのないようお願いいたします。

ニコニコ



省 略 ☺ (公財)兵庫県勤労福祉協会ひょうご仕事と生活センターチーフコンサルタント国本豊泰様ようこそいらっしゃいました。本日の卓話よろしくお祈いします。

- 省 略 ☺ 公益財団法人兵庫県勤労福祉協会ひょうご仕事と生活センター国本豊泰様、本日の卓話よろしくお願ひします。
- 省 略 ☺ 国本さん、ようこそいらっしやいました。
- 省 略 ☺ ひょうご仕事と生活センター国本豊泰様、職業奉仕委員会松尾委員長、本日の卓話よろしくお願ひいたします。
- 省 略 ☺ 枝川先生、先日はありがとうございました。
- 省 略 ☺ 子供が大相撲番付で幕下48枚に昇進しました。今後とも応援宜しくお願ひします。
- 省 略 ☺ アメリカ大統領選挙を控えオバマ前大統領が21日にペンシルベニア州で演説しました。
心に訴えかける、非常にカッコいいスピーチでした。とても勉強になります。トランプか、バイデンか。結果は11月3日。
- 省 略 ☺ 畑さん一人涼しそうですね。寒くないですか。
- 省 略 ☺ 久しぶりに例会へ出席出来ました。感謝です。
- 省 略 ☺ テーブルの花いただきます。

以上10件 ¥16,000-
本年度累計¥552,000-

出席委員会

- ☆ 今 週 会員数 75 名 出席 42 名 出席免除 16 名 欠席 17 名
☆ 欠 席 者 省略
- ☆ 前 々 週 会員数 75 名 出席 49 名 出席免除 17 名 欠席 9 名
☆ ゲ ス ト (公財)兵庫県勤労福祉協会 ひょうご仕事と生活センター
チーフコンサルタント 国本 豊泰氏
- ☆ メークアップ 加古川中央 RC 10/22 長谷川幸、今村、大山、藤堂、山本

親睦活動委員会

例会場当番

- 11月10日(火) 福谷、桑田圭
11月17日(火) 長谷川吉、森



プログラム委員会

本日10月27日(火)	11月3日(火)	11月10日(火)	11月17日(火)
職場例会 ゲスト卓話 ワーク・ライフ・バランス推進の 取組はなぜ必要か？ ～「ウイズコロナ」時代の到来 を視野にいれながら～ (公財)兵庫県勤労福祉協会 ひょうご仕事と生活センター チーフコンサルタント 国本 豊泰氏 職業奉仕委員会 担当	休会(祝日)	新会員自己紹介 石井・潮見 担当	フォーラム・ゲスト卓話 「ロータリー財団月間 にちなんで」 地区ロータリー財団委員会 委員長 丸尾 研一氏 ロータリー財団委員会担当

11月のおよろこび

◆ 誕生日祝 省略

◆ 結婚記念日祝

◆ 出席表彰

◆ 会社創立記念日

世界ポリオデー:大きな達成に焦点

ロータリーによる **2020 年世界ポリオデー(10 月 24 日)の特別オンラインプログラム**は、**アフリカ地域における野生型ポリオ根絶の認定**という歴史的達成事項にスポットライトを当てます。パラリンピック選手で、今年のプログラムの共同ホストとなるアデ・アデピタン氏にとって、この快挙は特別な意味をもちます。幼少期にポリオにかかったアデピタン氏は、「私はナイジェリア生まれなので、この達成を心から嬉しく思う」と述べ、小さいときからこの日を待ち望んでいたと述べました。

10 年前、全世界における野生型ポリオウイルスによる発症のうち、4 分の 3 はアフリカで起きていました。現在、10 億人以上が暮らすアフリカはポリオフリーとなっています。しかしアデピタン氏は、「根絶活動はまだ終わっていない」と警鐘を発し、全世界でのポリオ根絶という大きな目標の達成に精力的に取り組むことを訴えています。

同じく共同ホストを担うギータ・マネク氏(ロータリー財団管理委員)は、世界ポリオデーがロータリアンの意欲を高める特別な機会だと述べ、ポリオに終止符を打つために、ひたむきに根絶活動に取り組むロータリアンが世界中にいることを指摘しました。

共同の取り組み

ナイジェリアのポリオプラス委員長であるロータリアン、ツンジ・フンシヨ氏(Lekki Phase 1 ロータリークラブ会員)は、この快挙がアフリカの会員とリーダー、そして世界中の支援者によって成されたものであることを述べました。

先日、『TIME』誌の **2020 年「世界で最も影響力がある 100 人」**に選ばれたフンシヨ氏は、認識向上と資金調達のために無数のロータリアンがイベントを催し、政府への働きかけを行っていることを指摘します。「ポリオ根絶はまさに共同の取り組みです。この達成は私たち全員のものです」

ロータリーとその会員は、アフリカ地域でのポリオ根絶活動におよそ 8 億 9000 万ドルの寄付を行ってきました。これらの資金はポリオプラス補助金となり、サーベイランス、輸送、認識向上キャンペーン、NID(全国予防接種活動)に活用されます。

今年の世界ポリオデーの特別オンラインプログラムは、フェイスブックにて複数言語で配信され、日本では 10 月 24 日午前 8 時からの配信となる予定です。ビル&メリンダ・ゲイツ財団がスポンサーとなるこのプログラムでは、『TIME』誌の編集者であるジェフリー・クルーガー氏、TV ニュースのホスト役でロータリアンのマーク・ライト氏(米国、Seattle ロータリークラブ会員)、グラミー賞受賞歌手のアンジェリーク・キジョー氏が出演します。

「ポリオ根絶はまさに共同の取り組みです。この達成は私たち全員のものです。」

— ツンジ・フンシヨ

ナイジェリアのポリオプラス委員長

2020 年の課題

2020 年は、100 万人以上の命を奪い、世界経済を震撼させているコロナウイルスへの言及なしに語ることはできません。

グローバルアップデートでは、世界保健の専門家が、ロータリーと世界ポリオ根絶推進計画 (GPEI) の主要パートナーが今日までに築いてきたポリオ根絶活動のインフラが、コロナウイルスの世界的流行に対する対応においてどのように役立てられているかについて話します。WHO 事務局長付シニアアドバイザーであるブルース・アイルワード氏は、次のように述べます。「ポリオ根絶活動を通じて構築したインフラは、地域社会の関与と連携の方法、地域社会が実際に保健介入を行うための指導方法、疾病サーベイランスの方法など、ほかの多くの疾病に取り組む上で非常に重要な役割を果たしてきました」

グローバルアップデートのパネリストには、クリストファー・エリアス氏 (ビル&メリンダ・ゲイツ財団グローバル開発部門長)、ヘンリエッタ H. フォア氏 (UNICEF 事務局長)、レベッカ・マーティン氏 (米国疾病対策センター、グローバルヘルスセンターディレクター) も含まれます。エリアス氏は、世界にはほかにも伝染性の疾病が緊急的に流行しているものの、ロータリアンが常に支援してくれると話します。「ロータリアンは、ポリオキャンペーンで村の子どもたちに行った支援から学んだことを生かして、黄熱病やはしかのワクチンを子どもたちに届けています」



世界ポリオデーの特別オンラインプログラムで共同ホスト役を担うギータ・マネク・ロータリー財団管理委員 (左) と、マリー-アイリーン・リッチモンド・アファ氏 (コートジボワールの元ポリオプラス委員長) も、グローバルアップデートに参加しています。

グローバルアップデートでは、ポリオ根絶のインフラに基づくパンデミックへの対応戦略についても紹介しています。エチオピアのポリオサーベイランスチームがコロナウイルスの症例を報告しているほか、アフガニスタン、ナイジェリア、パキスタンでは、通常ポリオ対策に使用されている緊急活動センターがコロナウイルス対応に活用されています。

また、ナイジェリア・ボルノ州での予防接種活動で奮闘しているボランティアの保健ワーカーや、子どもたちをポリオから守るためにアフガニスタンで地域動員に尽力する人たちの様子を紹介するビデオも配信されます。

クルーガー氏は、ロータリー会員 3 名を含む「ポリオのパイオニア」たちと幼少期の経験について話します。これらのパイオニアは、1950 年代にジョナス・ソーク博士が開発したポリオワクチンの大規模試験に参加した、100 万人以上の子どもたちの中に含まれます。

今後のポリオとの闘い

ロータリーにおける目下の課題は、現在もポリオの発症が続いている 2 カ国 (アフガニスタンとパキスタン) で、野生型ポリオウイルスを根絶することです。また、アフリカでは、ウイルスの再感染を防ぐために、定期予防接種を強化する必要があります。

ポリオを根絶するには、ポリオの常在国やハイリスク国で、毎年複数回の質の高い予防接種キャンペーンを実施しなければなりません。コロナウイルスの世界的流行の間は、医療従事者をコロナウイルスから守りつつ、ポリオに対する人びとの免疫力維持と、ポリオ感染の予防に努める必要があります。

ロータリーは、1985 年にポリオプラス・プログラムを開始して以来、21 億ドル以上をポリオ根絶活動に投じてきました。現在、ビル&メリンダ・ゲイツ財団とのパートナーシップ (ロータリーからの寄付に対し、ゲイツ財団が 2 倍額を上乗せ) により、毎年 1 億 5000 万ドルが、ポリオ根絶という子どもたちとの約束を果たすために活用されます。